

WELL-BEING しあわせがわかるガッコウ

校 訓

自 学

自 律

協 力

今年度の
学校目標

学びを求める
羽中生

言動を律する
羽中生

仲間と伸びる
羽中生



学校づくりは
学級づくり
から

誰もが学びの
主体者になる学級

集団の課題に気づき
自ら解決を図る学級

仲間を敬い協働的な
活動ができる学級

心理的安全性

寛容的で安心感のある「学級風土」がすべての礎

教職員の ミッション

「個別最適な学び・協働的な学び」を具現化するホキの授業づくり

自 学

「学びに向かう力」を育み、勉強の「醍醐味」と「必要感」とを実感させる授業づくり

「学級経営シート」に基づいた「戦略的な」学級づくり（道徳で学び、学活で実践）

自 律

自律的な意識の向上を図るための、日常的な点検活動と改善への手だてを思考させる学級づくり

多様性を認め、他者のよさに気づき、仲間を尊敬する寛容力の醸成

協 力

「特別の教科 道徳」の授業力と、道徳教育全般の強化（教職員の「隠れたカリキュラム」）

学習指導要領の根拠となっており、国の教育全体の方針を示しているのが「教育振興基本計画（第4期）」です。ここでは「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が大きく掲げられています。ウェルビーイングは日本語で端的に表現するのが難しいのですが、文部科学省は、「身体的、精神的、社会的に良好で、持続的な幸福を指す概念」と定義しています。

今年度、本校ではウェルビーイングを「しあわせがわかるガッコウ」と換言しました。これを踏まえ、予めから設定されている校訓を基に3つの目標を設定しました。『自ら学びを求め』『自らを律し』『仲間と協働できる』こと、また、豊かに学べる環境にある「しあわせ」を改めて実感しながら、自身の未来のため、身近な人々のため、そして、社会のために活躍できる人に育ててほしいと願っています。

進化し続けるテクノロジーや多種多様な価値観が交錯する現代社会において、思春期の子どもたちが目標に向けて成長するためには、家庭と学校のこれまで以上の協働が不可欠です（2P参照）。今年度は、厚かましいとお感じになることを覚悟の上で、「ご家庭のミッション」として提示させていただきます。学校目標を達成するためにも、何卒、保護者の皆様のお力添えをお願いいたします。

併せて、本町義務教育の「出口」としての学びを支えていただく地域の皆様にも、本校の方針をご理解・ご支援いただきますよう、お願いいたします。

ご家庭の ミッション

「勉強内容の定着」よりも「勉強に向かう習慣」を重視する生活の確立

自 学

「マルチステージ型人生」を生きる子どものための、社会生活における「学び」の重要性の理解

「自分が決めて、自分で動く」ことが実践できる環境づくり

自 律

家庭生活におけるルールづくりと遵守するための点検や内容の見直し

ダイバーシティ（多様性の尊重）を意識した言動と家族の共通認識

協 力

人としての道徳観や礼儀作法、相手に応じた言葉遣いや社会的なマナーなどの躰

学びを求める 羽中生

「わかりたい」「できるようになりたい」と思って学ぶ

失敗してもあきらめず、粘り強く取り組む

自分で目標を立てたり、やり方を考えたりする

わからないことをそのままにせず、質問したり調べたりして解決する

友だちや先生の考えを聞き、自分の考えを広げる

学んだことを、次の学習や生活に生かす

「なぜだろう?」「もっと知りたい」と考え続ける

言動を律する 羽中生

一時の感情よりもルールや常識、マナーを大切にした言動を調整できる

相手の気持ちを考え、思いやりのある言葉を選んで話す

ルールや約束の意味を理解し、自分から守る行動ができる

注意や指摘を受けたとき、素直に受け止めることができる

失敗や間違いを、次に生かそうと振り返る

SNSでもマナーを守り、責任をもった言動ができる

周りに流されず、自分で適切に判断し、行動を選択する

仲間と伸びる 羽中生

仲間の意見や考えを最後まで聞いて受け止める

相手の立場を大切にしながら自分の考えを伝える

得意・不得意に関わらず、役割を見つけて協力する

悲しんでいたたり、困っていたりする仲間に気づき、声をかけたり助けたりする

意見が違ってても、話し合いで折り合いをつけようとする

仲間から学び、自分の考えや行動をより良くしようとする

失敗や間違いを、仲間と次につなげる学びにできる

以上を成長の目安（評価規準）として、以下の目指す姿（ゴール）へ…

『やらされる』ではなく『自分のために』として勉強に取り組める人に



言動をコントロールし自分にも周りにも責任をもてる人に

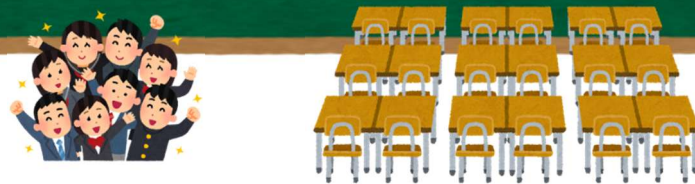


仲間と関わる中で自分のよさや課題に気づき成長し続ける人に

誰もが学びの
主体者になる学級

集団の課題に気づき
自ら解決を図る学級

仲間を敬い協働的な
活動ができる学級



家庭の環境と躰と愛あつての学校教育

本校の学校教育目標は、学校だけで達成できるものではありません。子どもは一日の多くの時間を家庭で過ごすため、私たちは手段や立場は違えども、保護者の皆様と「同じゴール」を目指すことを大切にします。学校教育目標は、学校限定の目標ではなく、子どもを健全に育てるための『家庭と学校の共通の目標』にしたいと考えています。

前述のとおり、私たちが今年度の目標にするのは、「自分から学ぶ人」「自身の言動に責任がもてる人」「他者を敬うことができる人」です。これらは未来の社会生活において、必ず必要とされるチカラです。その基礎を身に付けるためには、学校での取組

と同時に、家庭での安心と支えが不可欠です。何卒ご理解いただきますよう、お願いいたします。

また、ご家庭において「生活環境を整えること」「結果よりも過程を認めること」「基本的な生活習慣や倫理観などの躰」、そして何より、「親の愛情を伝えること」は、教員が代わることのできない家庭の大切な役割です。家庭と学校が同じゴールを見据えつつも、それぞれの役割を果たし、協力して子どもの成長を支えていきましょう。

本校は、これまでも保護者の皆様からのご理解やご支援をたくさんいただいております。本年度も引き続き、共に育てる1年にしていきたいと思います。

毎日の300分で育むチカラ

学習指導要領より

知識・技能

学びに向かう力
人間性等

思考力・判断力
表現力等

主体的・対話的で深い学び

学びの礎となる教職員の働き方

心理的安全性の高い学級は

心理的安全性の高い職員室から

学校の役目

教育活動の精選と質的転換
教員・支援員の指導力向上
子どもの多様性の尊重
家庭への情報発信・共有

時間的・精神的な
余白を生み出す

子どもと関わり
働きがいを実感する

家庭・地域等との協力

健全育成への家庭との協働
学校運営協議会の活性化
部活動の地域クラブ化の推進
羽幌小学校との連携

1学期【前期】

つくる
今年度の風土を築く

2学期【後期】

根ざす
ホンモノのチカラに

3学期【移行期】

伸ばす
次なるステージへ

前期（1学期末）
学校評価

学校づくりプランの見直し
【後期学校づくりプラン】

後期（2学期末）
学校評価

12月に結果を出す

R9_スタートプラン

卒業
&
進級